

大阪代協・中野信雄常務理事・事務局長

「即答できる体制」で運営  
フロントオフィスの役割も

業界再編や業法改正など業界を取り巻く環境が大きく変わる中、代理店として更に輝くためにはいち早くその動向や対応策情報を得ることが非常に重要となっている。そういった意味で、代理店にとって日本代協をはじめとする全国の代協は貴重な情報源となっている。

全国代協の中で最も多くの会員を擁する大阪代協の事務局を担っているのは中野信雄常務理事・事務局長である。平成22年10月に東京海上日動保険㈱から出向で着任し、一昨年12月末に同社を定年退職したのを機に、平成27年1月から大阪代協に席を置くこととなった。

中野事務局長が事務局運営にあたって最も心がけているのは、『会員に役立つ事務局であるために、即答できる体制であること』である。そのために様々なジャンルの読書やセミナーへの参加、また各種業界への人脈拡大などで、幅広い知識の習得や情報収集に努めている。とくに代理店業界の最新情報を得る絶好の機会として、黒石光寿大阪代協会長に随行して日本代協理事会へ出席している。そして、こうして得た知識・情報をきめ細かく正確に、タイムリーに代協や会員に提供している。

「最近では代理店としてどう運営していけばいいかといった相談が増えています。代理店も生き残るために必死です。あくまで原理原則に則った回答となりますが、私が得た情報や知識をフルに生かして助言させてもらっています。とにかくわからないことは徹底的に調べ、準備しています」

その一方で、情報発信にも積極的に取り組む。日本代協に対して会員の声を伝えたり、保険会社や監督官庁、各種団体等にも積極的に足を運び、損保代理店や損害保険の役割・状況など認知度をアップを図っている。

また、事務局改革の一ツとして3年前に会員システム導入に尽力した。本来事務局にはバックオフィスとしての役割があるが、機械化などによって時間を創り出し、できた時間を代協会員に働きかけていくという、フロントオフィスとしての役割を果たして行くのが狙いである。

「以前は私も事務員も事務的な仕事に時間を追われ、会員に対して十分な情報・サービス提供ができていない状況でした。会員システムはデータベースとも直結しており、即座に対応できるものとなっています。これは事務の効率化だけではなく、会員に対するきめ細かなサービス提供のほか、将来いろいろな取り組みを行うにあたって必要なデータを保管することもできます。事務員の負担が減り、それまで私が行っていた仕事をサポートしてもらえます。時間ができることでハード、ソフトの両面で充実したものを会員に提供できるようになりました」

事務局の改革に限らず、代協組織として、存続を確保し、持続的成長を可能とするBCP(事業継続計画)の策定にも取り組んでいる。

「機械化もその一つですが、職務で例えれば誰がその職務を負ったとしてもこなしていけるようマニュアル化を図ることがです。担当者がいなくなっても後任者が一から手探りで始めなければならぬという組織であってはなりません。個人の力ではなく、組織として継続してBCPを図れるような仕組みを作っておきたい。そのためのマニュアル化です」

現在、支部組織のマニュアルを作成中だと話す。

「私にとって、この仕事は天職だと感じています。会員の皆様を通じて保険業界に恩返しをしたい想いが強くあります。それはまた社会全体に対する恩返しだと考えています。今後とも代協ならびに会員の皆さまの一助になるよう尽力していきたいです。加えて、心の若い人材を見出し、育てて頂ける環境を創ることも重要な責務と考えています。おかげ様で一歩ずつではありますが、新しい芽が吹き出してきていると感じます」と締めくくった。



大阪損害保険代理業協会  
常務理事・事務局長  
中野 信雄氏

クローズアップ